はじめに　授業指導案集ができるまで

滋賀県立公文書館　大月英雄

本特集号は、令和３年（2021）３月に当館の開館記念誌として刊行した『歴史公文書が語る湖国 明治・大正・昭和の滋賀県』（以下、「記念誌」という。）の授業指導案集です。

１　『歴史公文書が語る湖国』授業活用研究会の発足

記念誌は、明治期から昭和期までの本県のあゆみを、豊富な資料写真を交えてわかりやすく紹介したもので、刊行以来、多くの皆様にご愛読いただいてきました。このたび、令和４年に本県が誕生して150年の節目の年を迎えることから、子どもたちに本県の歴史をより深く知ってもらいたいとの思いで、同書を県内の中学校・高等学校に1部ずつ寄贈させていただきました。

しかしながら、日頃から多忙な学校現場において、記念誌を送付するだけでは、なかなか手に取っていただけない恐れもあり、より実際の授業で活用しやすくするため、本特集号をとりまとめることにした次第です。実効性ある教材づくりのためには、現場の教員の協力が欠かせないことから、教育委員会を通じて６名の先生方に執筆を依頼し、日本近代教育史が専門の宮坂朋幸氏（大阪商業大学教授）にも、ご助言いただくことにしました。

こうして発足した『歴史公文書が語る湖国』授業活用研究会は、５月28日に第１回目の会合を開きました。宮坂氏に「『歴史公文書が語る湖国』活用に向けて」と題してご講演いただき、当館と教育委員会から事業の概要や、学習指導要領改訂の趣旨（後述）等を説明しました。なるべく多様な授業に対応できるよう、記念誌の主な担当箇所（５章分）や授業の種類（「歴史学習」または「総合学習」）を振り分けました。

第２回目（８月27日）と第３回目（10月26日）は、各委員が原案を持ち寄り、率直な意見交換を行いました。前者は中学校班と高校班に分かれて詳細に、後者は委員全員で全体の構成等を検討しました。議論のなかでは、資料写真を生徒のタブレット等から閲覧できるようにしてほしいとの要望が出され、令和４年度から当館ホームページで順次デジタル公開することにしました。11月30日には最終原稿を提出いただき、１月まで当館で編集作業を行いました。

２　授業指導案集の構成

本特集号は６章構成で、全16頁（１章１～２頁）からなります。歴史学習用４本、総合学習用２本を掲載し、宮坂氏には記念誌の授業活用の意義について寄稿いただきました。当初の予定では、記念誌本文（+写真）を用いた指導案を想定していましたが、各委員が非常に意欲的で、多くの指導案において、一次資料の利用まで踏み込んだ内容となりました。準備過程では、当館職員が関連資料の調査や、翻刻（活字化）などを行い、歴史公文書等（歴史資料として重要な公文書等）に馴染みの薄い先生方をサポートする役割を担いました。本特集号を参考として、教員の皆様が実際に授業を行う際も、同様のレファレンスに応じますので、お気軽にご相談ください。

３　さらなる「学校教育における活用」に向けて

平成29・30年に告示された新学習指導要領では、歴史学習における「資料」の活用が重視されており、特に高等学校の「歴史総合」「日本史探究」には、連携機関として初めて「公文書館」が位置付けられました。

また、令和２年４月に施行した「滋賀県公文書等の管理に関する条例」でも、歴史公文書等の利用の促進の1つとして、同文書の「学校教育における活用」を位置付けています（第22条第２項）。

今後、社会的にも本県としても、ますます公文書館と学校との連携が求められるなか、本特集号はその初めの一歩として刊行いたしました。１人でも多くの子どもたちに、本県の歴史公文書を身近に感じてもらえるよう、様々な取り組みを行っていきますので、ぜひご期待ください。

【『歴史公文書が語る湖国』授業活用研究会】

会長　宮坂朋幸（大阪商業大学）
委員　小林美希（近江八幡市立八幡中学校）
　　山田鋼平（甲賀市立土山中学校）
　　七里広志（滋賀大学教育学部附属中学校）
　　山本茂雄（滋賀県立膳所高等学校）
　　北川和樹（滋賀県立大津高等学校）
　　武友陽平（滋賀県立石山高等学校）
事務局　久保田重幸（滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課）
　　上田真也（滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課）
　　御厨篤志（滋賀県教育委員会事務局高校教育課）
　　大月英雄（滋賀県立公文書館）